



みずみどり

2025 年 4 月 1 日

第 167 号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

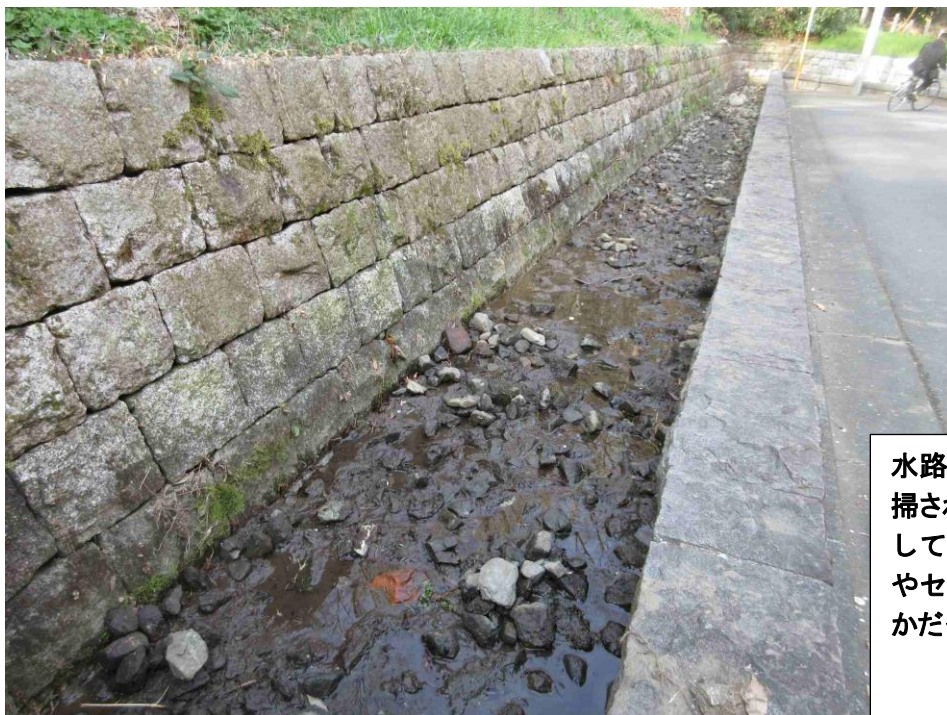
連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295

赤塚公園の湧き水と生き物調査

湧水見学会を予定していた3月16日が雨天のため20日に延期したため、参加者は会員3名と、ゲスト1名で湧水の見学を行いました。

最初に徳丸が丘緑地の公園わきの水路の見学です。湧水が柵にしたり落ちる音に癒され、水路の上にはキツネノカミソリやニリンソウ、クサイチゴの葉が生えてきており、花が咲くのを見たいと思いました。湧き水が水路に入る入口で、わずかながら流れる水をビニール袋で汲み、ビーカーで測りました。湧水量は、1分間で約1リットルでした。柵に貯められた湧水は池の水源になっています。

道路にある雨水柵には楕円形の穴が二つあり湧水が流れ込んでいました。水路を見た後は公園内の池にカエルが来ていないか、卵が有るか確認しましたが、残念ながら見つかりませんでした。



水路はきれいに清掃されて、以前繁茂していたクレソンやセリなどはわずかだった。



沖山地区の水溜まり

番場地区の崖沿いを歩いていくと、沖山地区になります。道路脇の水たまりでは、下見を行った3月 15 日にヒキガエルが何匹も産卵に来ていました。



20 日、一面の卵の量の多さに驚きました。2m×1m位の池を埋め尽くすようにロープ状の卵がありましたが、空気に触れているものもあり、雨が降らないと干からびて生まれてこないことが多いとのこと。自然の厳しさを考えさせられました。日陰には前日の雪がわずかに残っていました。

大門地区

大門地区はニリンソウの群生地となっていますが、まだ、花が咲いているのはまばらで、これからが見ごろになるようです。赤塚の緑は多くの区民の署名により保護を訴え、都立公園になり、ニリンソウを区の花にするよう働きかけを行ったことで守られているということを学びました。崖線沿いは北側斜面で夏の暑さをしのぐことができ、湿った土壌を好む植物が観察できます。

コクサギ若芽やヤブツバキの花、落ちて実の観察をしながら進みます。

しったり坂(写真右)は昔からある道筋で湧き水がしみ出している場所です。ここでも湧水量を調査しました(1 分間あたり約0.6リットル)。



赤塚トンボ池(写真右)

赤塚溜池公園は梅の花も終盤となり、遅咲きの品種がちらほら咲いています。トンボ池にカエルの姿は見えません。卵も無く、いつ池に来ているのか、心待ちにしています。

美術館裏の吐出口の湧水量は1分間で18リットル、1日あたり26000リットルになります。1人の1日の水の使用量を200リットルとすると130人分の量になります。





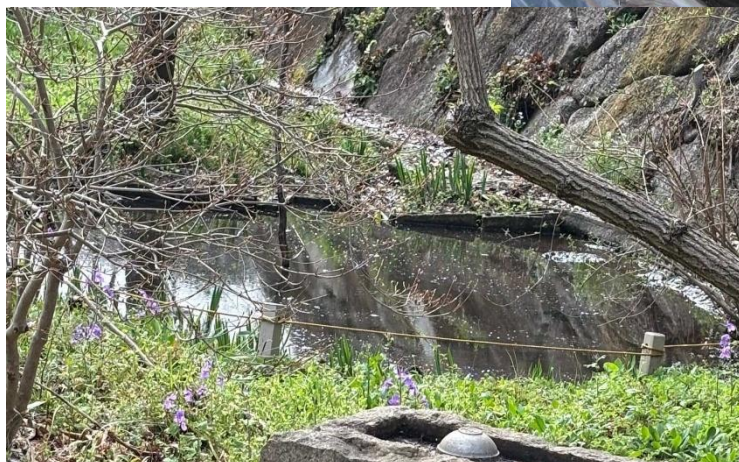
写真左は美術館裏の湧水吐出口で湧き水の量を測定しているところです。

トンボ池にそそぐ水の水源は、不動の滝の向かい側にあります。

この湧き水は、赤塚小学校から植物園、浄蓮寺一带に降った雨が源です(涵養域と言います)。

ここは標高16mくらいで、徳丸緑地や大門の崖下より、高い標高です。関東ローム層などの帯水層にたまった水が流れ出ています。

写真右は、裏山の湧水と浄蓮寺下から流れ出る湧水が合流する分水点のマンホールです。他に付近の崖から滴る水もありました。



大仏下の池

毎年カエルが産卵に来ていましたが、今年はカエルの姿も卵もみあたりませんでした。

不動の滝

不動の滝は江戸時代中期頃から、富士山や大山などの霊山参拝の際、身を清めるのに使われていました。以前は水量が多く、サワガニが見られたそうです。滝の上は、不動の滝の湧水を保全するため、板橋区が買収し公園になっています。滝の裏山の宅地化が進み、水量は減っています



が、枯れずにでています。ピーカーで受けて湧水量を測定しました。1 分間当たり 0.57 リットルでした。

地面にしみ込む水の量を減らさないよう、対策をとっていき湧水を守ることが大切だと思います。庭を作るときはコンクリートで固めるのではなく、砂利などを敷き詰めるなどの工夫をしてはいかがでしょうか。踏むと音の出るものは防犯にもなります。また、「雨庭」という方法もあり、こちらは庭の下に雨水をためるので、豪雨災害を減らすことができます。（鈴木より子）

板橋区の湧水保全条例

板橋区には湧水保全条例があります。板橋区は、武蔵野台地と荒川低地と崖線と湧水があります。これが板橋区の特徴です。板橋区に多い北斜面は緑地として残されてきましたが、建築技術が進歩して、崖下にも住宅が建てられるようになり、民有地の崖の緑は急激に失われつつあります。このままでは、荒川河川敷を別として公園と、公園にある斜面林が主な緑地になってしまうでしょう。そしてまだ、崖下には湧水が残っています。

板橋区の地形のマイナス面を見ると、低地の洪水・浸水、斜面の土砂崩れなどの心配があります。湧水保全条例は、湧き水をキーワードに、みどりと土を守り、洪水や災害に強い、水と緑と土のよい関係づくりを目指しています。これは地域を思いやる温暖化対策でもあると思うのですが…（坂本郁子）

赤塚ため池の水と赤塚トンボ池の水

トンボ池の水源は湧き水です。浄蓮寺の大仏下から湧く水を山裾の配管で導水し、美術館の入り口付近で地上に出て池に流れ込んでいます。環境政策課ではこの湧水量を継続観測しており、変動がありますがだいたい 12 リットル／分の湧き水が池に流入しているそうです。

この量は、水道の蛇口から勢いよく出た水の量と同じくらいです。入ってきた湧き水はトンボ池の下流側から流れ出て水路を通り、ため池に流入する仕組みになっていますが、ため池にたどり着く前にほとんど消えています。つまりトンボ池では、12 リットルの水が池に入って、池底や水路から浸透して、また地下水になっているのです。

一方、赤塚ため池は、水が抜けると困るので底はコンクリになっているとおもいます。また赤塚ため池の水は湧き水ではなく、くみ上げた水（地下水）です。地下水は、蒸発分の補給＋池水の汚れを薄めるために使われています。トンボ池から浸透した水もため池の水になっているかもしれません。

9 月初めの大雨後、池に流入する湧水量は、1 分間に 30 リットルと倍以上に増えました。

トンボ池からため池に向かう水路の出口では、毎分 3 リットルの水が出ていました。

毎分 30 リットルの湧き水が、トンボ池に流入し、3 リットル（流入量の 10 分の 1）がため池に流れ込む。残りの 27 リットルは地下水になったことになります。これが、トンボ池に入った水と出た水の収支報告です。水が浸透する地盤に注目し、大事にしたいですね（坂本郁子）。

城址に新しく開設された公園

3 月 9 日にみんなで訪れました。

ここは、沖田萬司さんのお住まいがあったところです。まだお元気だったころ、お宅におじゃまして農家の暮らしや雑木林についてうかがいました。

沖田さんの話「最近、雑木林とか里山と言われるが、昔はそんな言い方はしなかったし、この辺の林は テレビで出てくるような雑木林ではない。板橋区は起伏が多く、平坦地はすべて農地にし、畑が出来ない斜面が林になっていた。この辺では、自家の雑木は 20 年に一度切って燃料にした」（略）そうです。沖田さんのお話は会のホームページ会報のバックナンバー 51 号に掲載しています。

公園の奥（北側）は、常緑樹の森になっています。沖田さんが「家のまわりには防風林としてカシを植えた」とおっしゃっていたので、ここだけは昔のままのようです。立派なシラカシ、シイノキ、クスノキがありました。クスノキは暖地系の木ですが、温暖化で沖田さんの庭にもひとりでに生えてきたのでしょうか。



広場には芝が張られていましたが、やがていろいろな草が出てきて、城址の草原やバッタ広場のようになるでしょう。どんなふうに変わっていくか、楽しみです。

2 月に、シジミチョウの仲間のムラサキシジミ（か、ムラサキツバメ）がいました。成虫で越冬し、幼虫



は常緑カシ類を食べるチョウチョです。

見かけた野鳥のこと

コサギ

2 月 10 日頃からコサギが毎日トンボ池にきているらしい。梅が咲き始めて、人が増え始めたら、来なくなりました。

以前もコサギが来たことがありました。コサギは、脚で泥を小刻みに掻いて、出てきたザリガニを食べていたそうです（猪鼻さんの報告）。トンボ池には魚もいますが、ザリガニが圧倒的に多く、冬でもトラップをかけてザリガニを捕獲しています。冬の間、ザリガニは池の底—泥の中でじっとしています。コサギが毎日来るということは、獲物にありつけるということなのですね。もっぱら水際の浅いところで、エサ探しをし、1 日に 2、3 匹食べたとして、ザリガニ駆除に苦労している身としてはありがたい仲間です。



ため池にいる鳥

ため池にいつもいるのはカルガモ。ときどきカワウが潜ったり出たりして、釣りの邪魔をしています。1 月にはアオサギを見ましたが、ゴイサギも来ていたようです。

カルガモのようでないカモがいる

2 か月ほど前から、ため池にカルガモではないカモが一羽泳いでいました。カルガモより小さく、くちばしが白っぽく（カルガモのくちばしは黒く先が黄色）キンクロハジロに似ています。鈴木さんもキンクロハジロがいる、と気づいていたようです。しかし、このカモはお尻の毛が白いところがカルガモみたいなので、カルガモとの交雑種かもしれません。カルガモは留鳥、キンクロハジロは渡り鳥なので春には北国に帰っていきますが、このカモはどうするのでしょうか。



オオタカをみました。

昨年はオオタカの営巣を見るために望遠鏡を持った人が大勢集まり、オオタカがかわいそうでした。今年は城址北斜面の木が、ほとんど伐採されたので、オオタカにとっては止まり木がなくなってよくない環境になったと観察していた人が言っていました。

活動・観察記録(2月～3月)

トンボ池

ウラギンシジミ（死骸）、キタテハ、コサギ、カルガモ、ザリガニ捕獲 188 匹

ザリガニは週 1 回トラップをかけて回収しましたが、捕獲数は 12、1 月の 1/2 以下でした。ザリガニは大からミニサイズまであり、年中繁殖していることがわかるが、この時期は中～大の個体が増え、冬の間泥の下でじっとしているようでも、落ち葉などのエサを食べて成長しているようです。また 3 月下旬からカルガモも来て（オタマジャクシがいなくてもかわらず）水の中でエサをあさっており、ザリガニを食べているのかもしれませんが。コサギも時々来ており、人間、カルガモ、コサギに捕獲され続け、いくらなんでもいなくなりそうな気がするのですが・・・植物では、フェンス際の水際に、ツクシ、タコノアシの新芽？、奥には、オモト、エビネの新芽。畔を土嚢で補修しました（3 か所）。上から池底の泥を載せます。ぼちぼちやります。

カエルとオタマジャクシのこと

例年、ハラハラしながら、カエルが来るのを待ちましたが、今年は、産卵はありませんでした。2 月 15 日、まだ寒い中、カエルのクックツという声を聞きました。3 月に入ってトンボ池で鳴き声が聞こえ、3 月 13 日には池にカエルが泳いでいましたが。その後、カエルも、卵もありません。天敵のカルガモやヘビもいるし、カエルの数が減って、トンボ池での繁殖は期待できなくなったのかもしれませんが。それと、温度変化が激しくて、生き物たちも混乱してしまうでしょう。私は生き物に及ぼす温暖化の影響は大きいと思います。

バッタ広場

2 月 9 日、ササ刈。手袋や服はくつつき虫だらけ。寺尾さんが聞く「この種は何？」、「これはイノコズチ、これはヌスビトハギ、これはキンミズヒキ、それからセンダングサ」とみんなで答えます。寺尾さんは俳句をやっているので、くつつき虫体験も俳句のネタになりますね。

2 月 22 日

バッタ広場、「12 月に刈ったから、いいんじゃないの」と言われましたが、同じ場所を再度刈りました。ササを根絶できなくても日当たりのよい場所なので野草が優占すると期待します。きっと春に野草が出てきます。「みんなで同じ場所を集中して刈る」方針です。3 月も同じ考えでやりました。

総会のお知らせ—どなたでも

下記により総会を開きます。総会は会員の方も、そうでない方も、板橋の自然について話したい、会のやっていることを聞きたい、という場です。

日時：4 月 13 日（日）11 時半～1 時半

会場：COCO'S 四葉店（板橋区四葉 2-7、松月院通り沿いの「四葉町」バス停前（バスは赤羽—成増間）

参加費：無料 ただし、飲食費は自分持ちです。

問合わせ：坂本郁子 090-4618-1295 mizumidori@nifty.com

4 月 13 日（日）10 時トンボ池集合で、10 時～11 時まで会の活動フィールドをみんなで観察して、徒歩で COCO'S に行きます。予約の都合上、参加される方は坂本までご連絡ください。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会です。自然の中の活動もほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、好きな時にご参加ください。予定を変更する場合もあるのでご了承ください。参加費は無料です。カマなど道具は用意します。保険は入っていません。

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）どなたでも

城址をちょっと観察してから、ササ刈り等の作業をします。草や土に触って自然を感じてね。

4月13日（日）10:00～11:00

11時に終了し、総会懇親会の会場に移動します

5月11日（日）10:00～11:00

6月8日（日）10:00～11:00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープの手入れ（第4土曜日）

4月26日（土）10:00～11:00

5月24日（土）10:00～11:00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前 汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察（第1日曜日） 10時日暮台公園前集合

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費 2000 円：振込先は表紙に記載）。